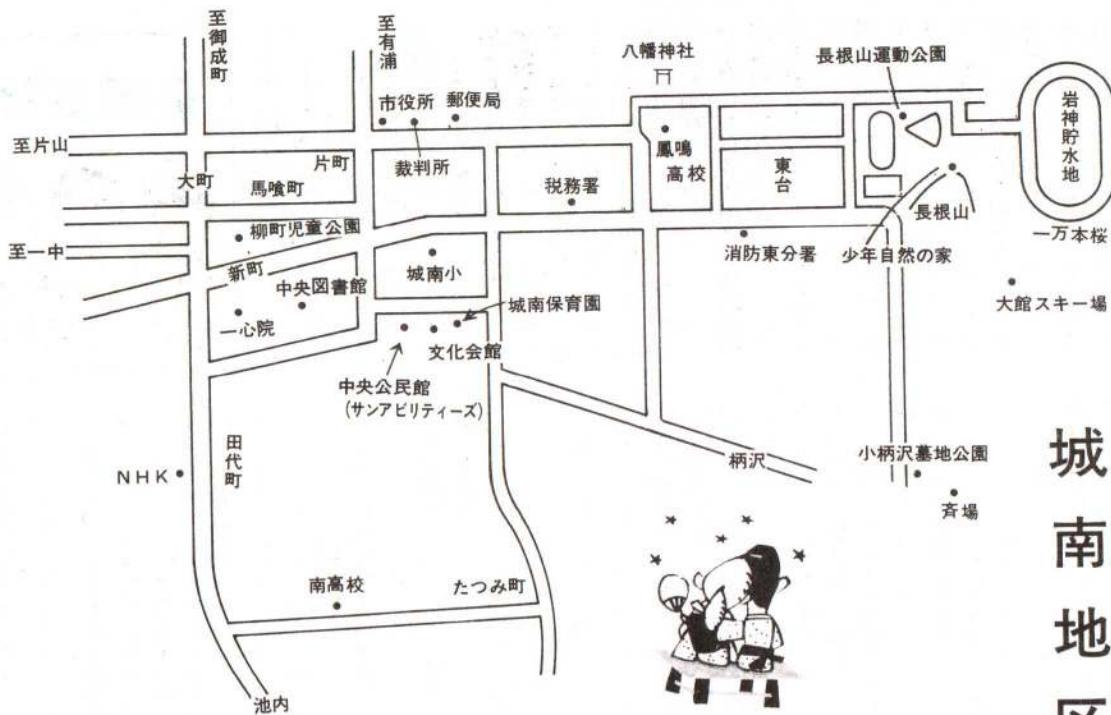


マイタウンガイド

城南地区編



5周年を迎えた 市民文化会館

市民文化会館は、昭和五十七年六月オープンして今年で五周年を迎えました。

この間、同館の主催する事業や市民の芸術文化の発表の場として多くの市民に利用されてきました。オープンから六十一年三月まで大、中ホールや、展示室などを利用した方は、五十四万三千八百二十二人にもなっており、市民が年に約二回利用したということになります。

記念すべき五周年を迎えた今年度は、数々の記念事業を行っていただきますのでご家族そろってご鑑賞ください。これからの行事としては、

- ▼9月9日(火) 文学座公演「怪談牡丹燈籠」
- ▼9月13日(土) 劇団四季公演「ウェストサイド物語」
- ▼9月29日(月) 英国女王陛下近衛軍楽隊演奏会
- ▼11月10日(月) 「能、狂言」公演 ほか

たずね歩き

真田幸村の墓

一心院の墓地の一角に「信濃屋長左衛門事 真田左衛門 門佐幸村 之墓」と刻まれた墓がある。

この墓について郷土史研究家の故達子勝蔵氏が「真田幸村と一心院」の中で次のように書いている。(要約)

「大阪城の軍師真田幸村は、日本史では元和元年(一六一五年)五月七日大阪落城の際、戦死したという説をとっている。ところが調査してみると幸村の子孫である北海道飯田家に伝わる真田家の系図と大館市谷地町後の一心院にある過去帳が、戒名も没年月日も一致しており、幸村が一心院の墓地へ葬られ

谷地町獅子舞

われら
サークル仲間

谷地町の獅子舞は、約三百五十年前から始められた歴史的にも古い獅子舞です。昭和三十六年の秋田国体のころまでは盛んに行われていましたが、以後会員が徐々に少なくなり自



然休会。十五年ほど前に、青年会が中心となって復活、現在十五人で活動しています。

獅子舞のストーリーは「三匹の獅子が山から里に下りて来て、雌獅子をめぐって雄獅子と中獅子が争い、その後仲なおりをして山へ帰る」となっています。

獅子役のア部修一さんは「動きの激しい踊りなのでたいへん疲れます。とくに夏場は暑さで汗が滝のように流れ、具合が悪くなるほどです。それでも汗を流した後のさわやかさは何にもかえがたい。いま一番の悩みは後継者問題です。なかなか成り手はいないのですが、少しでも若い人を増やしてこの伝統のある獅子舞を残していかなければいけない」と話していました。



▲右が真田幸村のも
のといわれている
墓で左が昭和28年
に新しく建てられ
た墓

たことがわかった。大阪で戦死したのは影武者であり、ひそかに逃げのびた幸村は、全国を行脚して大館の岩神に居を構えた。そして屋号を「信濃屋」と称して畑を耕し、紐を作った。商いし、生活の資としていた。その後、小館花に移り、寛永十八年十二月十五日(一六四一年)に七十六歳で死去した。また、大館神明社には、幸村が背負ってきたといわれる地蔵様(戊辰戦争で焼失したため、その後復元された)が祀られている。